

活動名	団体名	子ども読書活動推進ネットワーク・防府
子ども読書まつり	地 域	山口県防府市
	代 表 者	代表 宮本 敦子
	支援金額	10万円
活動概要		
平成20年5月11日(日)		
1. 講演会 講師:横山真佐子氏(子どもの広場主宰)、会場:防府市地域協働支援センター多目的ホール 演題「絵本なにを読めばいいの?~深い絵本の世界~」 時間 10:00~11:30 講師の横山真佐子さんは幼いときの絵本との出会いを語りながら、赤ちゃんから小中学生、大人も楽しめる絵本を紹介、会場の人は熱心に聞き入っていた。[参加者50名]		
2. 絵本展 多目的ホールB 開催時間 10:00~15:30 会場は横山真佐子さんの指導により、絵本が楽しく見られるように展示にも工夫があり、会場の中は子どもの絵本の城にいるような感覚で来場者が本を選んでいた。		
3. おはなし会 読み聞かせ団体、8団体が参加、防府図書館おはなしの会 10:00~15:00多目的ホールA、12:00~15:00とに分かれ開催。親子が絵本の読み聞かせや紙芝居などで楽しむ [参加者、親子で延べ約100名]		
◆実施時期: 平成20年4月1日~平成21年3月31日 防府市地域協働支援センター、防府図書館 おはなしの部屋 各地区公民館、幼稚園、保育園、小学校、高齢者施設等(読み聞かせ活動)		
◆参加人数: 役員(男性 5名・女性 20名) 学生アルバイト(延べ6名) 子ども(延べ人数、約500名) 大人(延べ人数、約800名)		
		参加総人員 1,300名



《和樂奏人 和夢の琴尺八演奏とおはなしのコラボ》



《横山真佐子氏講演会》



《絵本1,000冊フェア》



《防府図書館おはなしのへや 絵本読み聞かせ》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

1. 防府図書館では「おはなしの部屋」で8団体が読み聞かせ活動を開催しているが、「子ども読書まつり」は交流の機会となり、相互学習の機会となる。
2. 絵本展を開くことにより、絵本に接する機会をつくり、少しでも子どもの読書の普及をはかろうとの私たちの企画がお役にたてよかった感じる。読書の普及は時間の経過を要するし、一過性のものであっては意味がない。この活動にたいする理解が増え、継続されることを期待する。
3. 講演会を開催し、横山真佐子さんを防府市や周辺の人たちに紹介することができるとともに絵本のすばらしさ、子ども読書の大切さへの認識をひろめることができたと思う。
4. 行政サイトに子どもの読書について理解を得るために、まず市民が動くことが大切である。そのためにはどうすれば良いか、要望書の市当局への提出も必要であろうが、それとともに市民が協力しあって「子ども読書まつり」のような行事を開催することにより、理解の輪が広がっていくことを実感している。

◆苦労した点

1. 防府市では初めて開催する行事である。まず、なにをどうするのか不安を話すことにより、少しずつ解決していった。
2. 開催日は「こども読書週間」が好都合なのだが、連休明けで5月第2週は各地区の体育祭などの行事が開催されるということもあり、他の行事が済んで駆けつけるという親子もいた。
3. 行政と市民との協働の難しさを感じさせられている。「子ども読書まつり」に限らず、市民の自由な発想を行政にどのように理解してもらえるか、話し合うよりほかに方法はなさそうである。
4. P R 方法も「こども読書まつり」の看板など作成して何年も使われるようしたいところだが、看板を作るのにも必要な資金の工面をどうするか、今後の課題である。

◆今後の課題・発展の方向性

1. 「こども読書まつり」の内容について、最初は「子ども読書まつり」をすることに興味をいだかれるかもしれないが、何回も開催しているとマンネリ化することが心配される。
2. 市民が積極的に動くことの必要性はいわれるが、地方都市で市民サイドのリーダーがなかなか育ちにくいという市民性は一挙には変わらないであろう。また同時に行政サイドの子ども読書に対する理解が不可欠である。
3. 「移動図書館車」の学校への巡回や、子供読書を推進するうえでの防府市の課題は多く地道な活動の輪が広がってそうなることを期待したい。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団の助成金をいただき、お蔭様にて防府市で最初の「こども読書まつり」が開催できました。今後とも開催する必要は痛感しておりますが、今後は行政サイドにも子ども読書活動推進への積極姿勢を望みたいところです。防府市が「こども読書のまち」としての曙光をみることができますように頑張りたいと思っております。